

# 健・康・マ・メ・ち・し・き

著:串間市民病院 内科 医師  
井上 龍二

串間市民の皆さんこんにちは。  
唐突ですが、『自分が口から物が食べられなくなつたら?』と想像した事はありますか? 普通は考えないですよね。でも、人間命ある限り運命次第、いつかは病気などでそのような事態に直面する可能性があるのも悲しき現実ですね。  
人間が生きていくためには当然、栄養が必要です。もし、あなたが食事がうまく飲み込めない状況、そして意識も薄れ自分でどうしたいと意思表示もできなくなつたら…。  
今のが療の現場では、医師と家族が相談し、心臓に近い太い静脈での点滴(中心静脈栄養と呼ぶ)か、鼻から胃に通したチューブや今回の胃ろうからの栄養(経腸栄養と呼ぶ)で対応するか決めていくと思われます。一長一短はありますが、長期間ならば胃や腸を動かす経腸栄養がより自然な栄養方法です。  
そこで、本題の『胃ろうを通じて考えてみました

の外とのトンネル、または、自分では動かせないけれど第二の口と思つてください。

当院でも、この胃ろうを造らせて頂いていますが、対象のほとんどが脳卒中や認知症などで飲み込みができず、会話も難しい寝たきりで高齢の患者さまです。中には、鼻からのチューブを自分で抜いちやうために胃ろうへ交換となる方もおられます。

胃ろうを造る処置は、経皮内視鏡的胃瘻造設術と呼びます。紙面の関係で詳しくは省きますが、内視鏡（カメラ）で胃の中を見つ、お腹に小さな切開を加え、チューブを胃からお腹の外に通して完成、という算段です。当院では内科が、カメラ室でこの処置を行い、順調にいけば、カメラを使う場面は平均20～30分くらいです。お腹に局所麻酔し、動かれる方には少量の眠くなるお薬を注射します。問題なれば、2～3日目に薬や白湯を胃ろうから注入し、徐々に栄養剤の注入も始めます。

以上、比較的安全な処置ではありますが、衰弱され

た高齢の方が多く、治療の負担から生命に関わる危険性もあり、胃ろうの造設には十分な注意が必要です。胃ろうを造るにあたり、ご家族に最終的な了解を頂くわけですが、『痛い思いや危険をおしてまで、胃ろう造設をご本人が本当に望まれるかは計りかねます』とほぼ全例のご家族にお話をしています。

なぜかと言うと、例えば、ご主人が愛する奥さまに、『こげんなつたら、ここまでしてくれ、それ以上はすんなよ!』と前もつて意思表示をされていないからです。ただし、ご主人が事前に『絶対に管は何も入れんなよ!』と頼んでいた場合でも、(奥さまがどう思われるかは別として)生きながらえられる状況とすれば、在宅介護でも病院や施設の療養にしても、『では、栄養をどうするか?』と医療関係者と家族全員で悩む局面に立たされる可能性が大です。

一昔前のようにかかりつけの先生に往診してもらい、最低限の点滴で、最期は住み慣れた我が家で枯れるように穏やかに:と簡単には避けなくなっているの

介護制度 高齢化や核家族化などの複雑な問題が絡み合つており、一筋縄では解決が難しいと思われます。

胃ろうそのものは、栄養治療の優れた手段と思いますが、「おいしくない栄養剤を流される生き方が本当に人間らしいのか?私はしたくない!」と患者さまが言えば返す言葉がないのも事実です。

しかし、その本人が寝たきりになつたら、医療や介護をどうするかの判断はほとんどがご家族に委ねられるはずです。その際、栄養手段を確保しないと受け入れ先が見つからぬのも厳しい現実です。

医療の進歩が目覚ましい反面、自分の意思が社会的な問題で違う方向に進む矛盾が生じるかも知れない現世は本当に大変で、解決すべき問題も本当に山積みです。嫌な話題ですが、秋の夜長に家族で自分の最期について話し合うのも大事なことかと思います。

尋常でない猛暑も過ぎつある季節、皆さんくれぐれもお元気に過ごしてください。

大東公民館では、毎週日曜日に小中学生を対象に囲碁教室を開いています。当初は6人ほどだった参加者も今では13人。大東地区以外の子どもたちも参加するようになりました。

子どもたちに教えているのは東郷久盛先生。退職後何か地元に貢献したいと、趣味である囲碁を子どもたちに教えることにしました。

「子どもは覚えが早くてびっくりします」と笑顔で話します。

教室は先生の出す『詰碁』をみんなで解くことか

ら始まります。これは囲碁の問題集のようなもの。先生から出された問題を、みんなで手を考えて解いていきます。「囲碁には色々な手があります。子どもは考え方方が柔軟だから、思いもつかないような手を打ってきますよ」と先生も楽しそうな表情で話します。子どもたちも「どうやって自分の石を生かそうか、考えているときが一番楽しい」と頭を使う楽しさを堪能している様子です。

終わったら次はいよいよ対局です。人数が多くなつてきたためリーグ戦を行い毎月の優勝者を決定します。子どもたちは、「友達だけど、負けたらすごく悔しいです」と話します。先生によると負けたら悔しくて泣いてしまう子もいるとか。

それもそのはず、対局が

東郷先生は「やっぱり囲碁は集中力が身につきます。一生できる趣味なので、みんなにもずっとやつていってほしいですね」と話します。第2・4金曜日には大人の方を対象にした講座もあります。皆さんも、囲碁の世界にいざなわれてみませんか？

## 新春大東地区 囲碁大会 開催決定！

大東公民館で1月中旬に、囲碁大会を開催します。  
大人から子どもまで。どの地区でも参加可能です。  
豪華景品もご用意する予定です。

奮ってご参加ください。



# 大東公民館団碁教室